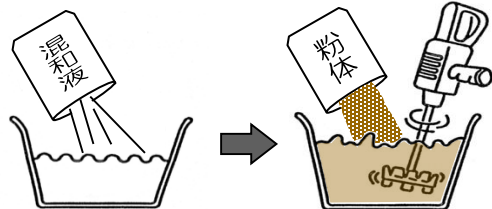


## 下塗材（10㎡セット）混練り

ハンドミキサー



混和液(4kg)を練りダルにうつします。

混和液に粉体(8kg)を加えハンドミキサーでダマができないように均一に混練りしてください。

下塗り用 粉体	8kg
下塗り用 混和液	4kg
施工面積	10㎡

※使用した道具はすぐに水洗いしてください。乾燥すると洗えなくなります。

※水は加えないでください。

## 上塗材 混練り

### ■上塗材の標準的な配合例

品名	基本配合比	配合A	配合B	塗り厚	施工面積
タタキバインド	14kg	14kg	14kg	18mm	1.5㎡
珪砂6号	20kg	20kg	20kg		
砂利	合計で 20kg混入	20kg	15kg		
		—	5kg		
水	6~7ℓ	6~7ℓ	6~7ℓ		

配合A・・・粒度の小さな玉砂利が表面にあまり表れない繊細な仕上がり。  
配合B・・・玉砂利(3~5mm)が表面に表れ、適度なアクセントになる仕上がり。

- モルタルミキサーにタタキバインド(14kg)と珪砂6号(20kg)、水(6~7ℓ)を加え混練りし、さらに砂利(合計で20kg)を加えポツリとした硬さになるように、水を調整しながら混練りしてください。
- 混練りした材料は、30分以内に使い切ってください。時間がたってからの材料の練り足し・練り返しは厳禁です。石膏の練り足しのように急激に硬化するので、注意してください。

※上塗材の練り上がり温度が30℃を超えると、硬化が早くなるので、ご注意ください。

※夏場はブルーシート等で日差しをさえぎり、日陰の状態 で材料や水を保管してください。混練り温度の上昇を防止してください。

※現場で調合する骨材の種類・量によって仕上がりの表情は違います。

※タタキバインドに配合する玉砂利は強度UPが主な目的です。粒径が10mm以上は仕上り面に露出しにくく、10mm以下は露出しやすく目立ちます。

## 使用・施工上の注意

1. タタキバインドには、珪砂、天然玉石・玉砂利、無機顔料以外のものは配合できません。セメントや石灰の混入は厳禁です。
2. かき落しの時に発生する粉(表面処理剤がしみこんだ表層の粉)をタタキバインドに混入しないでください。硬化不良が起こります。
3. 気温0℃以下の環境では、作業は中止してください。防凍剤・耐寒剤は混入できません。
4. 直射日光のあたる場所に混練り材料や水を保管しないでください。仕上材の練り上がり温度が30℃を超えると、急激に硬化することがあるので、ご注意ください。

## 取り扱い上の注意

1. 粉塵を長期間吸引すると肺への障害を生じる恐れがあります。取り扱い時には、防塵マスクを使用してください。
2. 皮膚についたり、目に入ると、炎症をおこすことがありますので、保護手袋・保護眼鏡を使用してください。万一目に入った場合は、多量の水で速やかに洗浄してください。
3. 詳細な注意事項については、製品安全データシート(MSDS)を事前にお読みください。

# 施工マニュアル

ホルムアルデヒド放散等級区分  
F☆☆☆☆

土の味わい“たたき、仕上げ 専用バインダー

# タタキ バインド

## 商品構成

### タタキバインド



Net. 14kg

標準色 3色  
・TB-1(黄色系)  
・TB-2(赤錆系)

### 副資材セット



10㎡セット 梱包内容

・下塗材 粉体 8kg、混和液 4kg  
・表面処理剤 2kg  
・施工マニュアル

## 使用工具

### ■養生

- ・養生テープ
- ・ロールマスキング
- ・カッターナイフ

### ■清掃

- ・デッキブラシ
- ・シャワー付きホース
- ・高圧洗浄機

### ■下塗材塗り付け

- ・ネリダル(バケツ)
- ・ハンドミキサー
- ・各種コテ
- ・ゴムレイキ

### ■上塗材塗り付け

- ・モルタルミキサー
- ・計量バケツ(水及び砂利)
- ・はかり
- ・一輪車(ネコ)
- ・プラ舟
- ・各種コテ、木ゴテ
- ・定木(ならし用)
- ・加圧式噴霧器(水用)
- ・加圧式噴霧器(表面処理剤用)
- ・スタイロフォーム(60cm角)
- ・アルミスリッパ(スポンジ付)

### ■かき落とし

- ・専用ワイヤーブラシ
- ・チリトリ
- ・左官用六行バケ
- ・ブルーシート

■改良のため予告なしに商品の仕様の一部を変更する場合がございます。

2022.9.9

## 技術関係問い合わせ先

■株式会社ハネダ化学 技術研究所 TEL.0555-84-8070

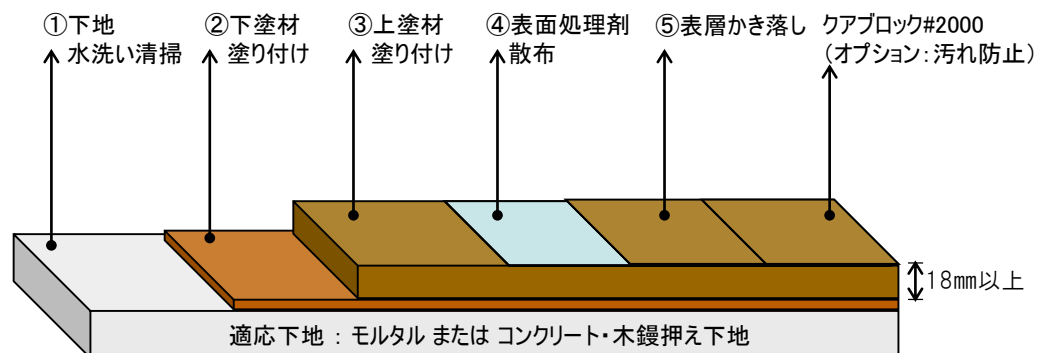
■株式会社 カネミヤ 建材部 TEL 0250-24-5321 FAX 0250-24-4006

〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町1丁目311 Mail:info@kanemiya-pro.jp



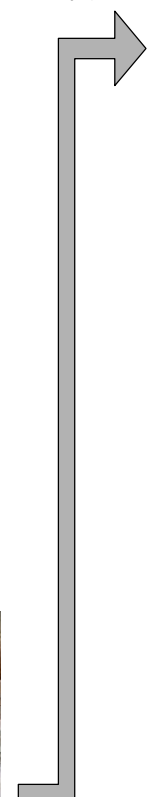
株式会社 **ハネダ化学**

### 施工展開図



※モルタル・コンクリートは木鍔押えとし、2週間以上乾燥養生してください。  
 ※モルタル・コンクリート下地以外の下地に施工する場合は、お問合せください。

乾燥後



### 3 『上塗材』塗り付け



混練りした上塗材を、定木・各種コテなどを使い平らに塗り付けてください。「上塗材 混練り方法」は、裏面をご参照ください。

#### 【オプション「化粧用玉石埋め込み」】

ポイントで入れる玉石は5分(18~24mm)位がよいと思います。上塗材を所定厚に打設したら、おっかけで埋め込んでください。10cm角に切ったスタイロフォームで玉石をタタキ込み、スタイロフォームでならして上塗材となじませてください。(㎡あたり5個程度)



### コテならし



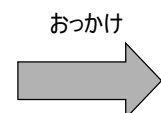
表面の水が引きはじめたら、上塗材がしまり始める合図です。タイミングよく、コテで平らにならしてください。もしもタイミングが遅すぎて、表面が乾き始めていたら、吸い込みがなくなるまで霧吹きなどで水を与えてからコテでならしてください。**しまり始めると急激に硬化するので、しまる前にコテでならしてください。**

#### ■コテでならずタイミングの目安

**内部** 1~1.5時間 **外部** 30分~1時間

※外部は、天候(気温、風、熱)に左右されますので、早めにコテでならしてください。

※コテならしの際、スタイロフォームを敷いて上に登りこむと、仕上面へこみが発生するので必ず木ゴテでムラを取り、金ゴテでならしてください。



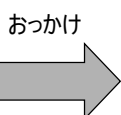
### 1 下地の清掃および水湿し



下地コンクリートに付着したレタンス・エフロレッセンス・ドロなど接着を阻害する物質を水洗い清掃(高圧洗浄)で除去してください。

下地は湿っているが水たまりのない状態で、下塗材をコテ塗りしてください。下地コンクリートとなじみよく塗布できます。

※湿っているコンクリートにハイフレックス等のシーラーを塗布しないでください。



### 2 『下塗材』塗り付け



混練りした下塗材を約1mm厚でコテ塗りしてください。「下塗材 混練り方法」は、裏面をご参照ください。

※下塗材が乾燥してから上塗材を施工してください。タタキバインド施工前日に下塗材を施工された方が翌日のタタキバインドの施工がスムーズです。

※下塗材塗布面を汚さないように注意してください。  
 ※「タタキバインド下塗材」以外の下塗材は、亀裂・剥離の原因になります。  
 ※柱やチリ際、その他付着が心配される所には、事前にテープ養生を行なってください。

### 4 『表面処理剤』散布



上塗材の表面が乾燥状態になってから



上塗材をコテでならしたら、おっかけで、表面が均一にたっぶり湿る程度に噴霧器で「表面処理剤」を散布してください。(200cc/㎡位)

※表面処理剤を下地モルタル・コンクリートに散布しないでください。下塗材の上にも散布しないでください。剥離の原因になります。散布した場合は、必ず水で洗い流してください。

### 5 表層かき落し後水洗い



上塗材を塗り付けしてから4~5時間後、塗布面が乾燥状態になってから、表層をかき落してください。専用ワイヤブラシで表面約1mmをかき取ります。かき取った砂は、左官六行バケで清掃除去してください。砂を取り除いてから水洗い清掃してください。

水洗い清掃後、水たまりのない状態にしてください。水たまりがあると、白く残る場合があります。

#### ■室内の現場で水が流せない場合

掻き落とし後の砂を清掃後、タイル目地拭き用のスポンジに水を含ませ、丁寧に拭取ってください。最後に水をたっぶり含ませ仕上げてください



### オプション

#### 汚れ防止用撥水剤『クアブロック#2000』の希釈液散布



「クアブロック#2000」(1ℓ)を水(15ℓ)で薄めた液を、ジョウロ等で均一に散布してください。

上塗材が完全乾燥後、塗布してください。クアブロック#2000の希釈液を散布する事により、仕上げ面が水をはじくようになります。コーヒーや、しょう油等をこぼしても、汚れ成分がしみ込みにくいので、早めに拭き取れば汚染を防止できます。主に、汚染が発生しやすい内部の床や、寒冷地で凍結防止の塩カルなどを散布する箇所に使用してください。

※水希釈したクアブロック#2000は、12時間以内にご使用ください。